

JTA全日本大会ル・ル

全日本F T大会当日は、時間節約のため、ルール説明を省略します。

初出場の選手の応援に来られる予定の家族、親族、友人等の皆様はご一読頂ければ幸いです。

全日本F T大会
審判部長 武田敬之

一、組手ルール JTAフルコンタクト・テコンドー・ルール

1、勝敗基準

優先度 1 一本勝ち

上段・中段への蹴り技か中段への突きにより主審が一本勝ちを宣言する。

優先度 2 技有り勝ち

技有り2つで一本勝ち、1つで技有り優勢勝ち。

但し、技有りの認定は、審判全員の同意を要する。

優先度 3 TKO勝ち

骨折・出血等による医師等の裁定、
実力格差・戦意喪失等による主審裁定、
セコンドによるタオル投入棄権等。

優先度 4 蹴美（華麗で美しく威力のある蹴り） 7 Willルールに基づく蹴美判定優勢勝ち

蹴美（シュウビ）は、日本テコンドー協会が普及する日本跆拳道の生命線とも言える重要な技術的概念です。

審判Aは蹴りの美しさ、蹴美審判Bは蹴りの威力を評価し、それぞれ基準を満たした蹴りに対し1ポイント与える。

一方が上限7（×蹴美審判2名=14）ポイントに達し、他方が達しない場合、前者が勝者となる。

主審は上限に達した選手による逃げの姿勢（過度クリンチ等）に対し、蹴美ポイントを減殺することができる。

しかし、選手双方が蹴美ポイントの上限に達した場合、あるいはそれに達しない場合は、蹴美ポイントは評価されなくなり、下記の通常の審判裁定となる。

優先度 5 判定優勢勝ち

主審 1 名と副審 2 名による判定で勝敗を決する。

この判定の場合、通常の打撃系格闘技として判定基準で裁定する。

たとえば、積極的裁定基準として、攻撃技の頻度が高く、蹴りや突き等がきいていると審判が判断した場合等
消極的裁定基準として、攻撃をせず、かわしている、というよりも逃がっている場合

1～3 回戦は旗揚げ判定とする。

準決勝以降は採点制（優勢 10 点、劣勢 9 点以下裁定）により勝敗を決する。

その他

最高審判長は上記の裁定に対し、審議を申し立てることができる。審議の末、上記の裁定を見直す場合もある。

2 , 審判の公平性

審判は、直属の弟子・生徒の組手試合の審判を回避する。

該当した場合は、予備審判と交代する。

二、反則と減点

主審は、下記の反則の程度により、「減点 1」または「注意 1」を与える。

減点 2、注意 4 で失格とする。

- 1 , 手技による顔面強打（反則負け。顔面への接触は蹴りを生かすためのおでこや顎に限り認める）
- 2 , 後頭部や背中への強打、
- 3 , 急所蹴り等の下段蹴り、
- 4 , 頭突きや目突き、
- 5 , 技をださない前進行為、
- 6 , 品位にかける中段突き（接近連打、クリンチ時の脇腹攻撃等）

7、体力切れの転倒、審判や相手選手に対する暴言・侮辱等の礼儀礼節に反する言動は禁止する。

8、その他審判が問題有りとする認めざる不義の行為

二、蹴武の型・全日本大会ルール

1、判定基準

1) 審判は次の三つの基準で裁定する。

蹴美性

蹴りの華麗さ美しさ。高い打点時の瞬間静止、背筋・膝・腰・足首等が整っている美しい蹴りの姿勢等を総合判断

蹴武性

蹴りの威力。強い脚力かつ腰も入っており蹴る瞬間の呼吸止め等により威力が認められる蹴り

基本

型の順序、立ち方、引き手等の正確性

2) 型決勝戦進出者選抜戦

A～Dの4ブロック毎の勝者1名を決定する。

一人づつリング上で、選択した自由型を実演し、ブロック毎の勝者1位を決定する。

3) 型決勝戦

ブロック勝者4名は一人づつリング上で指定型・忠武を実演する。

審判は1～4位の順位を決定する。

2、少年少女部型判定基準

1) 上記に準じる。

2) 選抜戦は行わない。自由型演武で勝敗を決する。

一人づつリング上で、選択した自由型を実演し、優勝者と2位を決定する。

